



年 組 名前

道新でワークシート

縄文時代の足形・手形並ぶ



縄文時代の子ども足形や手形を押した土製品を展示した企画展

函館市縄文文化交流センター（白尻町）が、初の企画展「足形・手形付土製品の世界」を同センターで開いている。縄文時代の葬送儀礼のあり方を知る重要な手がかりとされる子ども足形・手形の付いた土製品を中心に約50点を展示し、来場者を引きつけている。

（大山愛弓）

函館市縄文文化交流センター

市内豊原町の「北海道豊原4遺跡」の土坑からの出土品が昨年8月、国の重要文化財になったことを記念して企画。重文指定資料70点には乳幼児の足形や手形のある土製品5点が含まれることから、足形・手形付き土製品に焦点を当て、千歳市の美々7遺跡、木古内町の新道4遺跡からの出土品を含め縄文早期や後

期、晩期の資料を陳列した。センターによると足形・手形付き土製品は長さ10〜20センチ、穴が空けられ、ひもを通してつり下げたものと考えられている。早期のものは臺とみられる土坑で見つかったおり、亡くなった子ども足形などを押し付けた土製品を大切に飾っておき、親が亡くなった際、一緒に墓に埋めたと

貴重な土製品など50点

いう説もある。ただ後期のものは土器の廃棄場所から見つかり、固さや文様の有無で早期とは違いがあるという。学芸員の平野千枝さんは「早期の土製品は大事にされていたことがわかり、葬送儀礼のあり方を知る上で貴重なもの。後期は使う目的が違った可能性もあり、出土品を見比べて想像してみよう」。

展示は23日まで。国宝の中空土偶や重文の「北海道豊原4遺跡土坑出土品」などの常設展も見られる。開館は午前9時〜午後5時。月曜定休。入館料は一般300円、小学生以上の学生150円（函館市内の小中学生は無料）。

2017年4月10日夕刊函館・渡島・松山版（記事は再編集しています）

- ①子どもの足形・手形付き土製品は、どのようなことを知る上で重要な手がかりになると考えられていますか。
- ②この企画展では、3つの遺跡から見つかった足形・手形付きの土製品を展示しています。どの遺跡ですか。